

桜井遺跡

富田林市遺跡調査会報告16

編集・発行 富田林市遺跡調査会

住 所 〒584-8511

富田林市常盤町1番1号

発行年月日 1998年3月31日

調査地 大阪府富田林市

桜井町1丁目1381-1外

調査原因 共同住宅建設

調査主体 富田林市遺跡調査会

調査担当 栗田 薫

調査面積 45m²

調査期間 1998年3月6日～3月31日

はじめに

桜井遺跡は市域の北東部にある栗ヶ池と呼ばれている灌漑用水池のさらに北東部に広がる遺跡である。1980年に主要地方道美原・太子線新設工事に伴い中世の遺構が発見され、桜井遺跡として注目されるようになった。1984年に大阪府教育委員会によって行われた調査では中世の掘立柱建物、戸井戸などが確認されている。^(註1)

今回は桜井遺跡の中でも、西端中央部、国道170号線に隣接する地区を共同住宅建設に伴い調査した(図1)。

調査の方法と基本層序(図2)

調査は13カ所のトレンチを設定して行った。調査区の基本層序は第1層目(盛土)、第2層目(旧耕土-2)、第3層目(旧床土-2)、第4層目(旧耕土-1〔近世〕)、第5層目(旧床土-1〔近世〕)、第6層目(中世の包含層)である。

調査は第5層目までを機械で掘削し、後は人力で遺構検出に努めた。

遺構と遺物(図2)

遺構はすべて地山面で検出した。埋土の差違、および遺構の切り合い関係から4時期の遺構があ



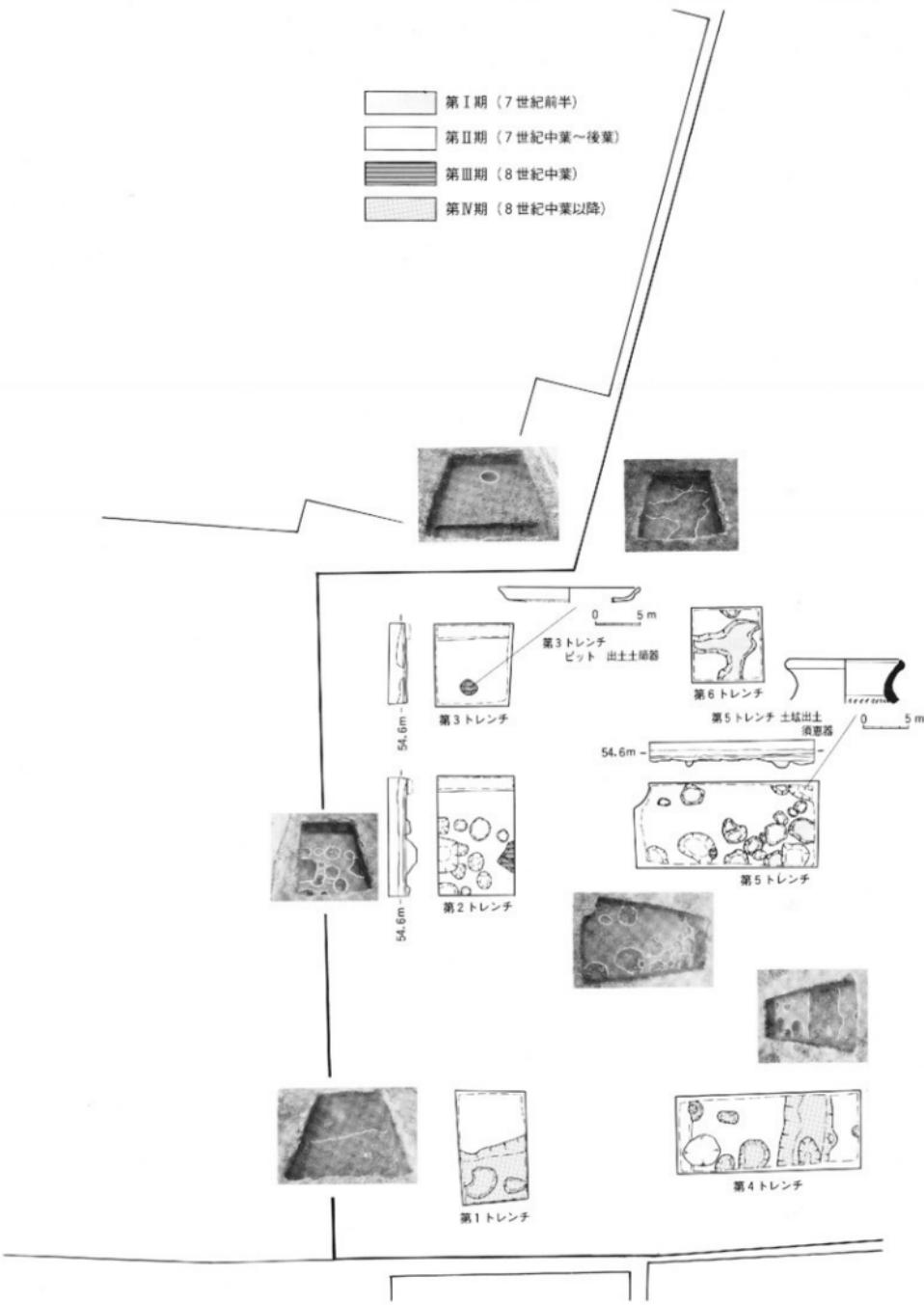
図1 桜井遺跡調査区位置図

ることが確認できた。

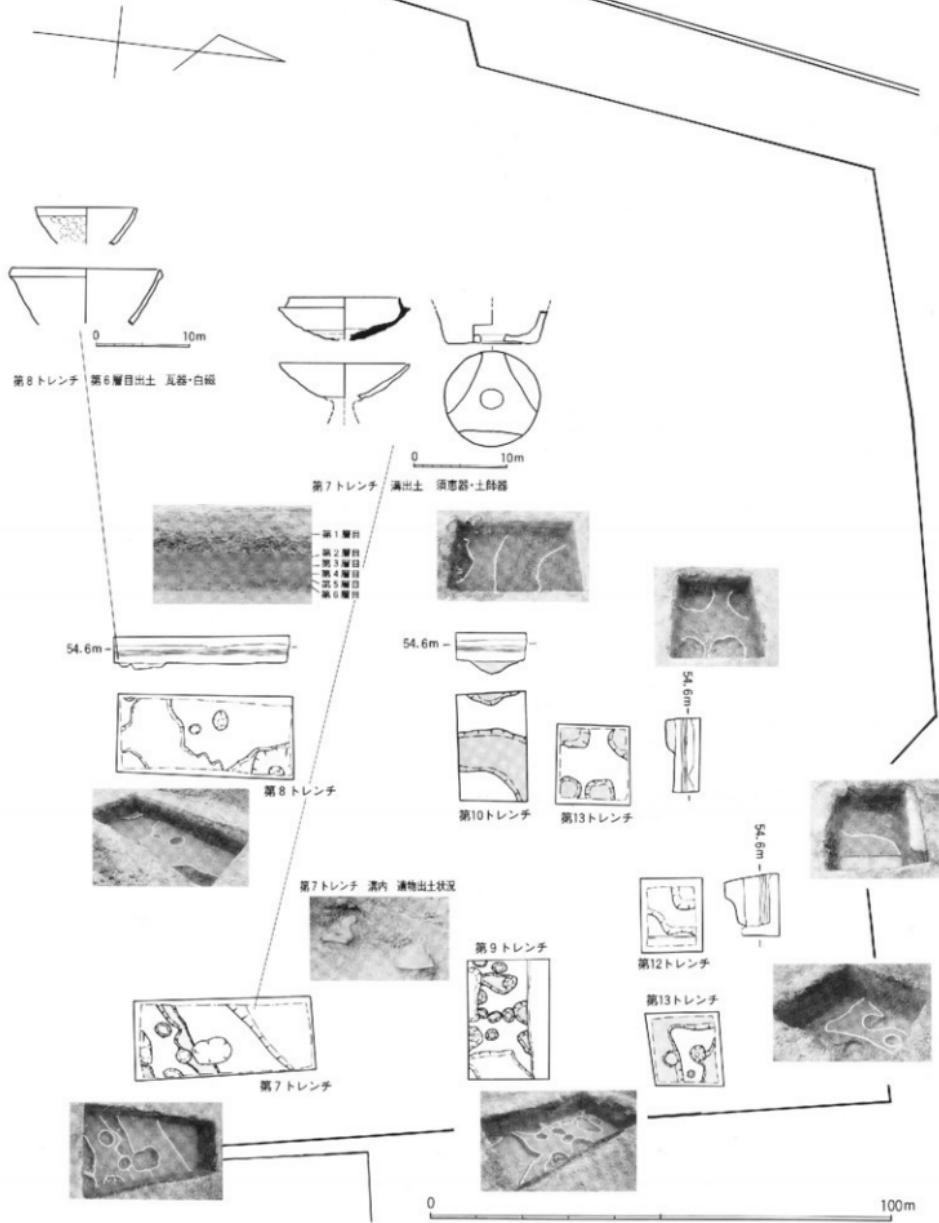
第I期の遺構は埋土が濁黄灰褐色混疊弱粘質土である。遺構は溝が3条、土塙が3カ所、ピットが38カ所ある。出土遺物は細片が多く、所属時期の確定が困難であるが、第II期の遺構との切り合い関係から7世紀前半頃と考えられる。第II期の遺構は埋土が濁灰褐黄色混疊弱粘質土で、7世紀中葉から8世紀に比定できる。遺構の種類は溝が4条、土塙が4カ所、ピットが11カ所ある。第III期の遺構は埋土が濁灰褐色弱粘質土で、8世紀中葉に比定できる。遺構はピットが4カ所ある。第IV期の遺構は埋土が灰褐色混疊弱粘質土で、時期は出土遺物から検討できず、遺構の切り合いから8世紀中葉以降に比定できるだけである。遺構は溝が2条、ピットが6カ所ある。なお、第III期と第IV期の遺構は南半部にだけ認められる。

また、北部に厚く堆積する包含層(第6層)は南端部にないことから、近世の水田開発に伴って南部域が大きく削平を受けていることが推測できる。出土遺物の大半は7世紀から8世紀の土師器と須恵器であるが、その中に瓦器の破片と白磁が混じることから、中世の包含層と認定した。

-  第Ⅰ期（7世紀前半）
-  第Ⅱ期（7世紀中葉～後葉）
-  第Ⅲ期（8世紀中葉）
-  第Ⅳ期（8世紀中葉以降）



国道 170 号線



まとめ

今回の調査で7世紀から8世紀にかけての溝、土塙、ピットなどを地表面で検出した。これらは切り合い関係と埋土の差違から4時期にわたって形成されたものであることは確認できたが、それぞれの遺構がどのような関係で構成されていたのかは明らかにできなかった。しかし、ピットや土塙の密集具合、すぐ上層の中世の包含層に含まれていた同時期の土器の出土状況を合わせ考えれば、その時期の集落がこの調査地を含めて、すぐ周辺に営まれていたことは想定できる。

1961年、藤澤一夫氏は新堂廃寺の調査の報告で、新堂廃寺の「背景氏族」として三氏、候補をあげられ、その内の二氏である桜井田部連と桜井臣の関連地として新堂廃寺の北東約1kmにある桜井という集落を想定された。今回の調査地はまさしく藤澤氏が桜井田部連の管掌した桜井屯倉、もしくは桜井臣の本貫地としてあげられた場所にあるものであった。^(註2)

1984年、大阪府教育委員会によって初めて本格的に桜井遺跡が調査されるが^g、遺構については中

世に限られ、新堂廃寺との関連より、むしろ石川城との関係を推測させるものであった。しかしそのような状況の中で、調査者は中世の包含層の中から多量の奈良時代の土師器や須恵器が出土していることに注目し、さらに新堂廃寺出土の平城宮タイプの軒丸瓦（平城宮6304型式）と同範のものが出土していることに着目して、時期的には下るものの桜井遺跡と新堂廃寺が深い関係にあることを示された。^(註3)

今回はトレンチ調査による狭い範囲の中で、遺構の構造を十分に検討できなかつたが、新堂廃寺の創建時に桜井に集落が形成されていたことが確実になった。このことで桜井遺跡を新堂廃寺の創建に関わる桜井屯倉もしくは桜井臣の本貫地としてすぐさま結びつけることはできないが、今後の調査成果によっては新たに新堂廃寺との関連を裏付けることのできる積極的な資料を得られるかもしれない。

(註1) 小林義孝氏のご教示による。

(註2) 藤澤一夫「新堂廃寺とその性格」

『河内新堂鳥舍寺跡の調査』大阪府教育委員会

1961年 29~36頁。

(註3) 小林義孝「まとめ」

『錦織細井廃寺跡発掘調査概要』大阪府文化財調査概要

1984年度所収 大阪府教育委員会 1984年 37~41頁。

報告書抄録

ふりがな	さくらいいせき						
書名	桜井遺跡						
副書名	富田林市遺跡調査会報告16						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著書名	栗田薫						
編集機関	富田林市遺跡調査会						
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 ☎0721-25-1000						
発行年月日	西暦1998年3月31日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
さくらいいせき 桜井遺跡	大阪府富田林市 桜井町1丁目 1831-1外	2714		34° 30° 54°	135° 36° 29°	1998.3.6 1998.3.31	45
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
桜井遺跡	その他	飛鳥時代～奈良時代	溝・土塙・ピット	土師器・須恵器			